第８号　令和４年１２月１２日

１学年通信　Practice Makes Perfect

担当：樹神

今月の月訓は「感謝」。　感謝について考えてみたいと思います。

１　誓いの言葉

三河高校には「誓いの言葉」があります。

> 私たちは　父母のおかげで　勉学する機会が与えられているから　その期待にそむかず　一生に二度とこないこの時を　無駄にすることなく　勉学と修養に励み　社会から喜ばれる人間になります

これは、感謝を自覚して自身の決意を現す言葉です。

なぜ私たち（生徒）はこの場（三河高校）で勉強をすることができているのか。

どんな気持ちで高校生活の３年間を過ごし、何をすべきなのか。

そして、目指す人物像は何か。

２　感謝の気持ちはどこから

感謝とは、自分が他の人から受けた行為をありがたく感じることです。受けた行為を当たり前と思っていては、感謝の感情は表れません。ではどうしたら他の人から受けた行為を当たり前のことではなく、特別なこと、ありがたいことと感じることができるのでしょうか。それは、受けた行為を一つ一つ確認して、ありがたく感じる心持ちを日々育てることです。そのためにはまず、自分自身のことをしっかりと認識すること。そして周りとの関係をきちんと把握することです。それによって、**受けた行為を特別と感じること**ができる自分を意識することができるようになります。これは、自己の意識の確立や周囲と自分との関係の把握が未熟な、幼児や児童では、感謝の気持ちを自発的に求めることができないことを示します。そのため、幼児や児童そして生徒は、機会があるたびに、様々な方から「ありがとうと言いましょう」「感謝の気持ちを持ちなさいと」言われるのです。高校生の皆さんは、自分のことや自分と周囲の関係をしっかりと把握できていますか。**自発的**に感謝の気持ちを持てていますか。

３　自分を確認（行動は自分で決定）

では、感謝する自分について確認をしてみましょう。私たちは、生まれた瞬間から何をおこなうにも**自分で行動を決めています**。ただし、周囲から提案されたものの中から選択して行動を決めているのが現実です。生まれてから死ぬまで、**周囲の助けや影響を受けることなく行動を決定することはできません**。ここで注意したいのは、行動は自分で決定しているということ。しかし、行動の選択肢の多くは、周囲の人や所属する社会から提供されているということです。そもそも生まれてすぐは、自分で選択肢を用意して行動することはできません。しかし、やがて年齢とともに選択肢の幅が広がり、与えられた選択肢の中からの行動ではなく、自分で創造した選択肢の中からも行動ができるようになっていきます。そんな中、**どんな場合でも**行動は自分自身で決定し実行しているということです。皆さんは高校へ進学する選択をしてこの三河高校に在籍をしています。その選択は、与えられた選択肢の人もいれば、自分自身の意思で選んだ人もいるでしょう。しかし、ここでの行動は自分で決定し実行しているのです。

４　周囲との関係

自分を作るものは自分。選択の中でどう行動するのかも自分しだい。今の自分を作ってきたのは自分。未来の皆さんを作るのも自分です。しかし、その背後には、**周囲の多くの人の手助けと理解**が存在しています。特に保護者は大きな存在です。4 月に入学してから現在まで、高校生という立場でいられるのは、自分の努力もありますが、その多くの部分は、他の人（保護者）のおかげであります。過去から現在、そして未来までも、**周囲の存在が無ければ今の自分は存在しません**。周囲の存在を通して私たちは自身を認識し、選択と行動を決定しているのです。その上で、**他の人のことを想い**自分のことを考える。すると、そこには孤独やわがままな気持ちは存在しません。感謝の気持ちを育むことは、社会の中での**存在価値を自ら自覚**することを促します。精神的、肉体的成長期の皆さんだからこそ、感謝について考えることは大切なことなのです。

５　期待すること

自分自身を振り返ることができる年齢になった皆さんには、すべての自分の行為に対して周囲から受けたことを知り、ありがたく感じて欲しいのです。**感謝の気持ちを通じて、自己の確立と他者へ思いやりの心から、幸せを感じることを学び、そして、幸せを与える存在であることを知って欲しい**です。

他の人と、どう向き合ってどのように行動したか。その結果が未来の自分を作っていきます。皆さんはこの三河高校で、『誓いの言葉』を胸に、感謝の気持ちを育みながら、高校生活を充実したものにしていってください。

☆１２月（師走）の行事予定・月訓『感謝』

1	木	２学期期末試験④	17	土	
2	金	２学期期末試験⑤	18	日	
3	土	受験対策講座⑪	19	月	学年朝礼
4	日		20	火	
5	月	40 分授業×６・７限　全校朝礼　身だしなみ指導	21	水	
6	火		22	木	２学期終業式
7	水	執行部合同会	23	金	
8	木	執行部合同会	24	土	
9	金		25	日	第二種電気工事士技能試験
10	土		26	月	
11	日	第一種電気工事士技能試験	27	火	
12	月	５０分授業×３限	28	水	
13	火	進路ガイダンス	29	木	
14	水		30	金	
15	木	保健講話（３限）	31	土	
16	金		1	日	

☆コラム『December は 10 番目の月!?』

12 月は英語で「December」というが、陸上競技の十種競技は英語で「decathlon」といい、バブル後の「失われた 10 年」でたびたび目にした「10 年」を意味する「decade」。これらの英単語に見られる「Dec」とは「10」を意味する接頭辞である。なぜ、12 月が「December」なのか。古代ローマにおいて暦は「10 月」までしか存在せず、「December」の後の 2 か月間は活動をほとんどしない、暦のない「冬休み」だったのだ。その後不便さから 11・12 月が暦に加えられ、呼び方はローマ神話の神の名があてられた。その後シーザーの時代、ユリウス暦に変更するにあたり、11・12 月を 1 月の前に置き、各月の名称はそのままにした。そのため 11 月が 1 月になり 12 月が 2 月になった。各月は 2 か月分後にずれ、現在のグレゴリオ暦でもその名残をとどめている。

現在、9 月が「September」、10 月が「October」、11 月が「November」と呼ばれ、それぞれに７、８、９の「接頭辞」がついているのはそのためだ。ちなみに（ジュリアス・）シーザーは 7 月を自分の名前にし、それが英語では「July」となっている

～～～ *Team Blue-1 Manager* ～～～